

飛騨農林事務所の普及活動状況（令和5年6月30日現在）

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■GLAMAいきいきネットワーク飛騨ブロック 夏季研修会及び夏の集い

6月29日、国府町でGLAMAいきいきネットワーク飛騨ブロックの夏季研修会及び夏の集いが開催された。

研修会では、農業普及課が農業者年金や労災保険、労務管理などについて説明し、経営支援のための情報を提供した。夏の集いでは、品目や地域の異なる会員が情報交換し、交流を深めた。

参加者からは「今後の我が家の経営の参考にしたい」との声が多かった。

農業普及課では、今後も女性農業者の活躍を後押しするため、アドバイザーの活動支援を継続する。



【経営支援の情報を提供】

安心して身近な「ぎふの食」づくり

■飛騨地域朝市連合 総会及び研修会を開催

飛騨地域朝市連合は、18の朝市・直売所が会員となり、研修会や情報交換を行っている。

6月12日、総会及び研修会が開催された。研修会では講師を招き、農薬適正使用について説明を受けた。その後、各朝市・直売所の運営状況を共有し、品物が減少しているなどの課題や集客を狙うイベント開催など取組の工夫について意見交換した。

農業普及課では今後も研修会や情報提供を通し、飛騨地域朝市連合の活動を支援していく。



【農薬適正使用を学ぶ】

■オオムギ 今年も黄金色に実りました

飛騨地域では国府町、荘川町、白川村でオオムギが合計21ha栽培されている。麦茶などの加工品となり地元で流通している。農業普及課では昨年秋のは種後から定期的に生育調査を行い、適期管理を呼びかけてきた。

収穫が近づく6月中旬、赤かび病の巡回調査と成熟期調査を行った。病気に侵された穂は確認されなかった。今後、梅雨の合間に収穫が進められ、出荷される予定である。



【赤かび病の有無を調査】

ぎふ農畜産物のブランド展開

■夏秋トマト 灰色かび病リスクに応じた耕種的防除法の実証開始

農業普及課では、国の事業を活用し、灰色かび病の発生予測及び対策技術の検証に取り組んでいる。

昨年度の試験では、環境モニタリングに基づく発病リスク値が高まった時に、葉先枯れ症の発生した葉を取り去ることが、灰色かび病のまん延防止につながった。しかし作業時間がかかることが課題として挙げられたため、今年度はより省力的な対策技術を検証していく。

今後、引き続き環境モニタリング装置を活用した灰色かび病の発生予測、及び発病状況を調査していく。



【モニタリング装置の設置を支援】

■飛驒桃 市場との産地交流会を開催

6月13日、JAひだ果実出荷組合協議会は、飛驒桃を取扱う市場4社を招き、有利販売につなげることを目的とした飛驒桃産地交流会を開催した。

市場担当者を交え、5名のほ場で桃の樹や果実を確認し、今年の出荷量は概ね平年並みと見込まれた。農業普及課は平均気温から試算した収穫予測日や病害虫の発生状況等を情報提供した。

協議会役員からは「高価格を維持して欲しい」との声があった。市場担当者は「飛驒桃の需要は高く、価格も期待に添えるよう努力するので、積極的な出荷をお願いしたい」と応じた。

農業普及課は今後も生産者や関係機関と連携しながら、飛驒桃の生産拡大・販売促進への取り組みを支援する。



【市場を交え意見交換】

■飛驒パプリカ 天敵放飼を行うほ場で現地検討会を開催

高山市内のパプリカ生産者等が組織するグリーンな飛驒パプリカ栽培協議会では、今年度から国の事業を活用し、天敵による害虫対策や生分解性マルチなど持続可能な技術の実証を行う。

6月20日、関係者が集い現地検討会を実施した。資材メーカー担当者を講師とし、天敵放飼のポイントを確認したほか、農業普及課からは実証に向けた調査方法について説明を行った。放飼した天敵の姿を念入りに確認するなど、生産者が積極的に検討に参加する様子が見られた。

農業普及課では、天敵の定着状況を随時確認し、天敵による防除技術確立に向け関係機関と連携し支援を継続する。



【生産者に調査方法を説明】

■夏秋なす 吉城蔬菜出荷組合特産部会なす部会の現地研修会

6月21日、吉城蔬菜出荷組合特産部会なす部会の夏秋なすの現地研修会が開催され、生産者12名が出席した。ハウス栽培の現地ほ場を見学し、生育状況や栽培管理方法について情報交換が行われた。

農業普及課からは、今後の栽培管理や排水対策、病害虫対策について説明した。

農業普及課では、JAひだ営農指導員と連携しながらなす栽培を支援していく。



【現地ほ場で情報交換】

地域資源を活かした農村づくり

■稲WCS 朝日地域の生産調整会議

6月12日、耕種・畜種農家が参加する稲ホールクロープサイレージ(WCS)生産調整会議が朝日支所で開催された。

農業普及課からは、サイレージの品質を保つための栽培ポイントを説明するとともに、耕種・畜種両方の収支を経営試算として示すことで双方の生産費への理解を促した。

農業普及課では、高山市と連携し、稲WCSの安定生産に向け支援を行っていく。



【令和5生産稲WCSの確認】